

積極的な ICT 活用姿勢と企画力を高めるための学校支援活動

成瀬 喜則*, 長山 昌子*

School Support Activities for Encouragement of ICT Use and Planning Ability

Yoshinori NARUSE*, Akiko NAGAYAMA*

1. はじめに

筆者らはこれまで電子メール、テレビ会議システムを活用した交流学习を進めてきた⁽¹⁾⁽²⁾。特に、1992年より継続的に行っている日本のA高等専門学校(以下A高専)と英国北アイルランドのB高校との学生間交流では、交流トピックや交流期間を教師同士が議論を通して決定して、学習者の反応を見ながら進めている。

本論文では、学習者が小学校同士の交流プログラムに参加して、教師や児童の活動を支援することを考えさせた。それによって学習者の交流学习への意欲を高めることができたので報告をする。

2. 実践背景

A高専、B高校には、それぞれC小学校とD小学校が隣接しており、両校とも国際交流に対する意識が高いことがわかっている。日英両国の小学校ともコンピュータやネットワーク等のICTを活用した国際交流学习の実績はほとんどない。

英国のD小学校は日本文化や日本語の学習には興味があるものの、交流を進めるまでには至っていなかった。一方、日本のC小学校では、国際理解教育の一環として簡単な英語を使った教育活動が行われており、図書室に国際交流コーナーを設置するなどの積

極性はあるが、英語で交流をするところまでには進んでいなかった。

そこで、日英両校との数度による打ち合わせの結果、英国のB高校とA高専がサポートすることによって小学校間の交流学习が可能になることがわかった。その際、A高専の学生が英語の翻訳、小学校間の交流に関する電子メールやテレビ会議での打ち合わせ、小学校紹介のDVD製作の作業を行うことによって、小学校間の交流が進むだけでなく、A高専の学生の英語能力やICT活用能力が育成されることも意図した。

3. 実践内容について

実践の内容は大きく分類して次の三つである。

① 翻訳支援活動

児童の作品に説明文のタグをつけるときに、日本語を英語に変換したり、その逆を行ったりする活動を指す。

② 小学校紹介活動

小学校の活動を映像や写真で紹介するときに、ビデオカメラ、コンピュータなどのICTを使って効果的にプレゼンテーション資料を作成する活動を指す。

③ テレビ会議や電子メールによる交流促進

小学校の児童が相手校の児童とメールやテレビ会議で交流するときに、会話の補助を行ったり、交流支援

* 富山商船高等専門学校 (Toyama National College of Maritime Technology)

受付日: 2008年10月31日; 再受付日: 2008年12月24日; 採録日: 2009年1月28日